



カナダ，ロイヤルティレル博物館訪問記

いしだけいすけ
石田啓祐（友の会会員）

一昨年（1998年）の8月，第5回ジュラ紀国際シンポジウムが，カナダ，バンクーバーのブリティッシュコロンビア大学で開かれ，発表のため出席しました．その前後に，ジュラ紀層序を中心としたロッキー山脈とクイーンシャルロット島での地質巡検が企画され，すべての日程に参加しました．地質巡検では，「進化の試行錯誤」として，注目を集めている，バージェス動物群の発掘現場を見学するため，ロッキー山脈での，1日がかりの登山を行うなど，印象深い経験ができました．これらについては，またの機会に紹介することにして，今回は，その際訪問した恐竜とバージェス動物群の展示で有名なロイヤルティレル（Royal Tyrrell）博物館について紹介します．

ロッキー山脈横断巡検のため，前日早朝に出発地のカルガリーに到着しました．カルガリーは，ご存じのように，ロッキー山脈の内陸側に位置する盆地で，標高が600mを越え，冬のオリンピックの開催地でも知られています．ジャンプ競技会場には，記念碑が建てられています．

ホストのカルガリー大学地質学教室Russell Hall氏の配慮で，巡検参加者の集合を待つ間にと，到着日の午後，アルバータ州にあるロイヤルティレル博物館の，収蔵庫を含めた全展示の見学がオプションで企画されました．カルガリーからバスで約2時間，到着したのは，カナダ内陸盆地の陸成層の発達する地域で，ここは，肉食恐竜のアル

バートサウルスの名前にもあるように，中生代の恐竜化石の一大産地として知られています．博物館は，台地の平坦面を侵食した幼年期の谷の中にあるため，建物の周囲には，白亜紀の陸成砂岩礫岩層が，ほぼ水平に重なり，これを侵食した谷の斜面には，ちょうど“阿波の土柱”と同じ，悪地地形が見られます．

博物館の目玉の一つは，恐竜の発掘ツアーに参加できることです．入り口付近で，ちょうど，先生に引率された小学生とみられる集団が，シャベルと小さなバケツを持参して，引き上げてくる所に出会いました．「収穫は？」とたずねたら「おもしろかった．」とニコッと笑っていました．

中生代恐竜コーナーの展示室には，ステイラコサウルス・アルバーテンシスをはじめとする恐竜の全身骨格標本が，格闘をしたり，営業したりといった，彼らの“ライフスタイル”の復元状態で



玄関ロビ - から眺める恐竜模型と白亜紀層

延々と展示されており，見る者を圧倒します．まさに，“ジュラシック・パーク”の世界です．

展示の目玉のもう一つは，恐竜骨格の復元作業室をガラスの窓越しに見学できることです．作業室では，多くの専門家が，堅い母岩からトリケラ

トプスの頭蓋骨ずがいこつや、2m 以上もある魚の全身骨格などを掘り出していました。このような作業を化石のクリーニングといますが、決して大味な作業ではなく、じつたいけんびきょう実体顕微鏡の下での精密な作業であることに驚きました。根気のいる仕事です。一般の見学者たちは、ちょうど作業室を天窓からのぞき込む形で、熱心に見守っていました。

次に、しゅうぞうこ収蔵庫に案内されると、そこには、せっこう石膏で固められた、発掘時のままの標本が所狭しと棚に並んでおり、何かにつまづきそうになって見ると、床には、半ばミイラ化したアンキロサウルスこんぼうの棍棒のようなしっぽの化石が、棚に積みきれずにころがっていました。収蔵庫だけでも、クリーニングの作業量として、50年分の標本があるそうです。

バージェス動物群のような、一つ一つは小さくても、世界的に貴重な標本の展示には、くふう工夫が凝らされており、壁面のガラスケースに展示された標本の番号をボタンで選択すると、むしめがね大きな虫眼鏡が移動して、実際の標本を拡大して見せてくれます。その横には、全て復元スケッチが添えられており、天井からは、時折、アノマロカリスの巨大な模型が電動で近づいてきます。

全体に、通史的な展示ではありますが、古生代のはじめから、ほにゅうどうぶつぞう新生代の哺乳動物相に至るまで、すべての時代にわたって、ロツキー山脈周辺の安定大陸上の整然とした地層から産したすばらしい標本の展示で埋められています。どの時代のどの生物相の展示も、標本を現地に保存するという精神が生かされており、標本の観察が、直接に、地層や地球の歴史への関心につながるような配慮が行き届いています。見学には、最低3日は費やしたいところです。もちろん発掘ツアーもオプションに加えて。

(インターネットのホームページに紹介があります。http://www.tyrrellmuseum.com/)

蹴 鞠

にい ふみこ新居文子(友の会会員)

二年ほど前、阿南市内のK氏宅に蹴鞠けまりの鞠くつと沓があるというので伺いました。箱の表書きに「文政十三寅歳弥生 吉辰 柏亭」とあります。「柏亭」とはK氏の実家かんばらけ(神原家)かしわに柏の大木があったところから名付けられた由よし。当時、神原家は豪ぬきなすおう壮な造り酒屋で、くろつち貫名松翁がこうみょうじ黒津地の光明寺に



蹴鞠の鞠と沓

ぐうきよ寓居の折、かんばらとどう主人神原杜堂は物心両面の援助おを惜しまず、深い親交があったことは有名。その神原家に蹴鞠をたしなんだ方がおられても何の不思議もないことですが、それを裏付ける何かが欲しいと思っていた矢先、K氏より一枚の古文書が持ち込まれました。みずくき水茎の跡もうるわ麗しいあすかいりゅう飛鳥井流蹴鞠の免許状でありました。

蹴鞠為門第絹帛上并緑紐白葛袴鴨沓藍白地
革之事免之候可有受用候仍状如件
文政 九年
十二月廿六日花押
神原俊三郎とのへ

もんてい門第としてきぬもじ絹帛のすいかん水干、くずばかま白い葛袴、かもくつ鴨沓(鞠沓)
しとうずにあいろしがわ鞆は藍白地革を許すというもので、いろめこの色目から入門または初心者の階級に当たるそうであります注す注)。

衣装は現存しないものの、この免許状で文化財としての価値が上がったことは間違いありません。

それから一年後、ある新聞の片隅に和歌が一首。その連綿の美しさについて目が留まりました。

み吉野の山の秋風さ夜ふけて ふるさと寒く衣うつなり 参議 雅経

作者雅経は「鎌倉時代前期の公卿・和歌・蹴鞠に秀で飛鳥井流と号した。飛鳥井流蹴鞠の祖…」という解説まで付いているではありませんか。小躍りしつつ図書館へ。辞典には飛鳥井雅経から雅望まで二十五代にわたる系譜と業績の詳述があり、前記免許状の花押の主、雅光の名前もしかとありました。紛れもなく飛鳥井流宗家からのものであることが確認できたのであります。

更にそれから一年後の今年の京都祇園祭り。都大路のそぞろ歩きに満足した翌朝、ふと目にした史跡略図に白峯神社が。保元の乱で讃岐へ

配流の身となられた崇徳上皇の御霊を祀る神社ではあるまいかと、早速出かけてみますと、正しく予想どおりでありました。が驚いたことに、その社地が飛鳥井家の邸宅跡と説明されています。静かな興奮を覚えながら境内を散策しますと、飛鳥井家ゆかりのものが点在しており、蹴鞠と和歌の守護神である精大明神の例祭には、今も蹴鞠が優雅に奉納されているとのこと。くのだんの免許状発信の地に期せずして立つことができたのであります。

資料収集に携わる身には、このような出会いは殊の外ありがたく思われます。

注)田中善隆氏のご高配で、京都蹴鞠保存会々長大西康義氏のご教示をいただきました。



白峰神社境内の精大明神



白峰神社のけまり絵馬

徳島県立博物館友の会・秋の研修会

秋の研修会として、飛鳥旅行を開催します。多数の会員の皆様のご参加をお待ちしています。

- 1 日 時 平成12年11月25～26日(25日7:40出発、26日19:00到着)
- 2 研修先・日程
 - 第1日目(11月25日)
 - 檀原考古学研究所附属博物館、高松塚古墳・絵画館、岩屋山古墳、猿石、鬼の俎・雪隠、亀石
 - 第2日目(11月26日)
 - 石舞台古墳、伝飛鳥板蓋宮、酒船石、亀形石・飛鳥池遺跡、飛鳥寺、飛鳥資料館、箸墓古墳
- 3 宿 泊 サイクリングターミナル千輪荘(TEL 07442-7-3196)
- 4 交 通 貸切バス1台を使用、集合・解散(文化の森と徳島駅前)
- 5 参加料 大人 5,000円 + 宿泊料・食費等 6,000円前後
 子供(小学生以下) 2,500円 + 宿泊料・食費等 5,000円前後

博物館紹介13



阿波池田たばこ資料館

なかむら 中村ヒサコ・あず美（友の会会員）

先日、香川県から帰る途中のことで、三頭トンネルを出てしばらく走ったところで「あれは何？」と言う娘の声に山の斜面を見ると、4～5枚の葉を残して茎だけになっているたばこ畑が目に入りました。稲作に適さない山間部では換金作物としてたばこが植えられると教えられ、見慣れた風景でもあったので、娘には取り立てて話したこともありませんでした。郡部とはいえ町中で育った娘が、たばこをしらないのは無理もないと、親として反省することしきりでした。

この度、機会を得て三好郡池田町にある、阿波池田たばこ資料館に行き、いろいろなことを知ることができましたのでご紹介します。



たばこ資料館の外観

池田町は、幕末から明治にかけて葉たばこで栄えた県西部の町です。資料館のある通りは、かつてはうだつのある家が軒を連ねていたのですが、今は数軒を残してほとんどが現代風の家に建て替えられています。

資料館は、たばこ製造業者の居宅であっただけに、うだつや格子窓のある、風情ある建物です。中に入ると左側は奥まで土間が続き、右側の座敷が受付になっています。随所に季節の花が生けてあり、古い民家を訪れたときのような懐かしい気持ちになりました。展示室は、たばこ製造の作業

場だった建物で、別棟になっています。渡り廊下でつながっていて、よく手入れされた中庭の向こうには離れがあります。

一階展示室には専売制が実施されるまで、たばこ製造業を営んでいた真鍋家に残る、帳簿類や使われていた機械、たばこの葉などを展示してあります。帳簿類は、開かれているページを見るだけでも、たばこに関わった当時の人たちの経済活動の様子がうかがわれます。また、きざみたばこの製造過程を図説したパネルでは、いかに葉たばこが大切なものとして取り扱われていたのかがよくわかります。



展示室風景

また、この資料館は、生涯学習の場としても活用できるように地域に開かれていて、二階の一部は、町民ギャラリーとして書や絵画、手芸作品などが出品されていました。また、離れや、いくつかの部屋は借りることができ、集会やお茶会、句会に利用されているとのことでした。

阿波池田たばこ資料館（うだつの家）

開館時間 午前9時～午後5時
 休館日 水曜日・年末年始
 入場料 一般 300円 高・大200円
 小・中100円（20名以上半額）
 所在地 三好郡池田町字マチ
 TEL 0883-72-3450

資料館への道や駐車場は、少しわかりにくいので事前に調べることをお勧めします。

わが町・わが家の宝物



岡崎のわんわん凧

まつや るみ
松屋壘美（友の会会員）

1692年（元禄5年）に鳴門市岡崎の蓮華寺本堂の棟上式の余興で揚げた凧が、第一号とされています。その後、凧は大きさを増していき、一時中断された時期があるものの、番付表が出されたり、町内会で競い合ったりしながら、今日も愛好者たちの手によって凧揚げは続いています。

第一号の凧を張った（鳴門では凧を作ることを張ると言う）時に、赤い塗椀の中に白い餅を浮かべたすまし汁を作業する人々へ振る舞ったそう

で、この椀が名前の由来であるといわれ、岡崎の



わんわん凧の番付

わんわん凧の模様にもなったと伝えられています。

大正12年の番付に岡崎のわんわん凧が長径11間（約20m）と記録されています。

ます。宇田紙を1500～2000枚使用したとてつもなく大きな凧です。その尾だけでも直径が40～50cm、長さ100mにも及びました。

昭和10年ごろ、岡崎のわんわん凧の製作と凧揚げに参加した祖父から当時の様子を聞きました。

今は海沿いの静かな町である岡崎は、かつて、北前船の寄港する港町として栄えていて、造船会社があり、八十八カ所巡りの始発点であることや、京阪神からの海路の玄関口にもなっていたこ

とから、旅館や料亭も数多くあるなどして大変活気をみなぎらせていたそうです。

凧作りには莫大な労力と費用を要するため、凧揚げは定期的ではなく、主に好景気の年に行っていたと言います。寄付金を募ることから始まり、凧を張ることに一ヶ月を費やし、5～6月の南東風（ませ）が強く吹く日を待って、凧揚げに挑むまで、わんわん凧へ一心に気持ちと力を注いだであろう人々の姿が私にも思い描くことができました。

凧揚げは同市里浦町の広戸海岸で行い、その日は蓮華寺の鐘で人々に知らせました。しかし、実際は凧の設計ミスや、風が弱すぎるなどの原因で、高く、長時間飛揚することは、なかなか無かったということです。



番付に描かれた凧揚げ風景

祖父が挑戦したときは約10秒間、40～50m程揚がり、みんなで大歓声を上げた直後に空中分解してしまったそうです（残念で泣いてしまったのだとか）。

凧の製作風景や揚げる場面をよく記憶している祖父は、大変詳しく話してくれましたが、そのことについては、また機会のあるときにお伝えいたします。

友の会行事報告



園瀬川探検（第2回）報告

たかしまよしひろ
高島芳弘（博物館学芸員・考古担当）

7月23日（日）、第2回の園瀬川探検を行いました。当日は快晴で、午前9時に集合した時から日陰を求めてさまようというような状態で、午後の暑さが思いやられました。参加者は8名で博物館からは坂本、佐藤、茨木、高島の4名が同行しました。

まず、文化の森が江戸時代の長谷川氏の屋敷・延生軒の上につくられていることを説明し、橋を渡って園瀬川河川敷へと下りていき、河川植物を観察しました。川原をブルドーザーで押して整地



長田堰で植物観察

したことが数回ありましたが、ほぼ植生が回復してツルヨシなどが繁茂し、ヤナギなどの木までが茂り始めているところもありました。

下流の潮止めの長田堰を見て冷田川へと北に向かって歩きました。現在、水は流れていますが、どぶ川のような状態です。さらに冷田川をさかのぼって夷山城まで歩きました。

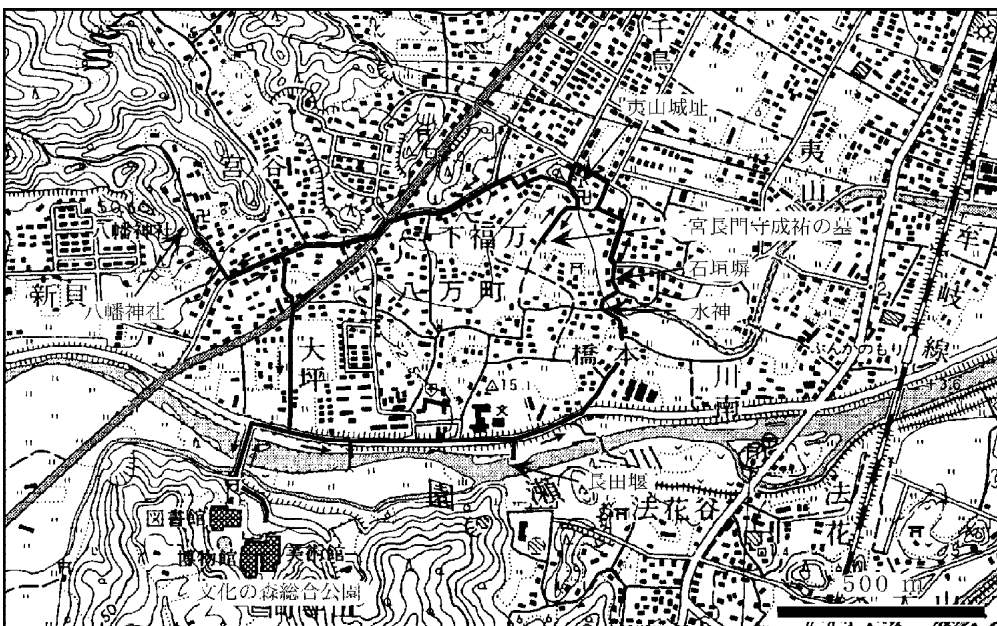
夷山城までの道は細く曲がりくねっており、道沿いには、地神さん・水神さんや宝暦七（1757）年十月の銘がある庚申さんなどがありました。道の両側には青石積みへいの塀を持つ大きな屋敷が並んでおりひじょうに趣がありました。午前11時近くになってようやく夷山城までたどり着きました。

夷山城は南北朝～安土桃山時代の城で、小さな独立丘陵どくりつきゅうりょうの上にあります。東側の麓には円福寺ふもとという寺があり、江戸時代、元禄頃になってこの地に移ってきたといわれています。それ以前には、山上の城と一体となる屋敷地が麓にあったのではないかと思います。

夷山城の西半分は大きく削られ公園となっています。残っている東半分の平場は、岩盤がんばんが露出しているところもありますが、建物を建てるに充分の広さがあります。平場への登り口の道は細く直角に曲がっており、進入しにくくなっています。

登り口の両脇には石垣がきれいに残っています。

一宮城主一宮成祐なりすけは長曾我部元親ちようそがべ もとちかによって夷山城に呼び出され謀殺ぼうさつされました。この墓が夷山城から南に少し離れた地に建てられています。ここではこの謀殺にまつわって伝えられる、夷山城から



第2回園瀬川探検ルートマップ（国土地理院2万5千分の1地形図「徳島」平成9年修正測量）



夷山城址から西方（文化の森方面）を望む

一宮城へ首なしの馬が走るという首なし馬伝説についても紹介しました。

夷山城から古い道に沿って歩き、八幡神社でしばし休息してから、近くの喫茶店で遅めの昼食を



戦国の武将，一宮長門守成祐の墓

とりました。いったん涼しいところで落ち着いてしまうと、また、暑い中を歩く気持ちになれず、今回はここでうち切りとし、上八万方面は次回に回すことにしました。

第1回、第2回と続けて園瀬川探検に参加してくれた南部さくらさんの感想を紹介します。

歩いてたんけん そのせ川

南部さくら（なんぶ 渋野小3年、友の会会員）

わたしは夏休みにはいってすぐの7月23日に、2回めの「そのせ川たんけん」にお母さんといっしょにさんかしました。

1回めのときは、つだ橋のところから文化の森まで、そのせ川にそって歩きました。とてもたくさん歩いたけれど、とちゅう、ほかの人たちから



変わった姿勢の八幡神社の狛犬

「がんばるね。」と何度も声をかけてもらってとてもうれしかったです。だから「次のときも行こう。」と決めていました。

とにかく、いろんなところを見ておもしろかったです。とくに、さい後に行

った八まん神社にあったさか立ちしているようなこま犬が、おもしろかったです。そのほかにも、そのせ川をおよいでいるかを見たり、においのする草を教えてもらったりしました。

道のりょうがわにきれいに石をつみ上げたへのつづく場所もありました。その道はとてもきれいで、ちょっとまがっていて、しんとした感じで、ほかの場所とはぜんぜんちがう感じがしました。



石垣が美しい、夷山界隈

むかしおしろがあったという小さな山のようなところにもものぼりました。のぼって下を見ると、少しのぼただけなのに、いろんなものが小さく見えました。それに、まわりに木がいっぱいあってしぜんがきれいだなと思いました。

あせをいっぱいかいてつかれたけれど、知らなかったことがだんだんわかってきたみたいで、がんばって歩いてよかったなと思いました。

会員広場

博物館普及行事に参加した感想を、篠原さん兄弟に寄せてもらいました。「藍染めをしよう(4月23日)」と「光に集まる昆虫かんさつ(7月22日)」の二つの行事の感想です。

初めてのあいぞめ

しのはら
篠原ひろみ(石井小3年)

初めて、ハンカチを染めました。わりばしと輪ゴムを使って、色々なもようを作りました。輪ゴムのまき方やわりばしの数によって、さまざまな形やもようができるのを知りました。

さて、いよいよ染める番です。二つのかまに交代につけます。手ぶくろは、はめていたけど、後で見ると手が少し青くなっていました。染め終わったら、輪ゴムやわりばしをとって、きれいな水でよく洗います。家族みんなちがって、私のが一番きれいだと思いました。新聞にのって顔が大きく写っていました。こんどは、色々な草木染めもしたいな。



藍染め完成後、全員で記念撮影

光に集まる昆虫

しのはら たくや
篠原拓也(石井小1年)

神山森林公園にいきました。光にガがあつまつたけど、ぼくのすきな虫は、きませんでした。でも、おかあさんがクヌギにカブト虫を見つけました。お父さんがつかまえて、ぼくとおねえちゃんにくれました。いえでそでたカブト虫よりすごく大きかったです。にわの木にしかけをしてもこないで、神山森林公園にまたいきたいとおもいます。

友の会行事の記録

企画展「侵入者たち 外国からやってきた

生きものたちの光と影」 説明会

場 所：博物館企画展示室

日 時：8月20日(日) 15:00～16:00

講 師：小川 誠(博物館主任学芸員)

参加者：16名



「侵入者たち」説明会

《事務局からのお知らせ》

友の会行事予定

- ・写生大会 11月3日(金)～5日(日)
- ・第3回園瀬川探検 11月12日(日)
文化の森～上八万町
- ・企画展「世紀末大博覧会」説明会
11月12日(日) 博物館企画展示室
- ・秋の研修会 11月25日(土)～26日(日)
- ・草だんごづくり&七草がゆ 2月4日(日)
博物館実習室

博物館開館 10周年記念行事「写生大会」

友の会では、博物館と共催で博物館開館10周年記念行事として写生大会を実施します。

期 間 11月3日(金)～5日(日)

受 付 午前9時30分～午後3時

会 場 博物館の常設展示室

対 象 小学生

参加費 無料

題 材 展示物または展示風景

用意するもの 画板、クレヨン・パステル・コンテ・色えんぴつ(絵の具は使用できません)